

2022年1月20日開会 (通算124回)

例会開催日は、木曜日です。

開会点鐘・歌の斉唱

日も風も星も

会長挨拶



みなさん、こんにちは!

本日もお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

まずは牧野さん、ようこそ、宮の杜へ!

牧野さんとはJCと一緒に活動させていただきましたが、非常にパーティー好きな男性でいつも楽しい時間を過ごさせて頂きました。

ここでも伊吹洋平さんと組んで、楽しませてくれることを期待しております。

是非入会して頂き、一緒に活動できたらと思いますのでよろしくお願い致します。

そして、ジェギョンさん、今回も来てくださりありがとうございます。

楽しんでいってください。

いよいよ、明日から2月13日まで、またまん延防止等重点措置が実施されます。

こんなに一気に感染者が増えるんですね!! 驚きました。

重症化が少ないと言われているオミクロン株ですが、今まで以上に感染力は強いみたいですね。

私は飲食業をしておりますので、感染者数に伴って売り上げは減少するというわかりやすい状況におかれております。

私自身の体重も業績と一緒に、コロナ渦で85kgから70kg ちょっとまで減り、今は正月太りで78kgくらいまでは戻ったのですが、またオミクロン株で減らなきゃいけないな...と思っているところです。

皆様もお体に気を付けて頂きながら、小池知事が"社会をとめない、経済をとめない"と仰るように、私自身も不要不急の外出を控えながらもとめないように毎日を過ごしております。

本日は例会前に息子の受験祈願に行って来ました。

こうして受験生を近くで見ていると、毎日のように受かるか受からないかとピリついている姿を見て、すごいな、と改めて感じております。

息子は数学がとても得意で、国語が苦手です。

いいところを伸ばしていくのがいいのではないかな?とも思いますが、今は全体的にできるようにしていくことが重要なのかなと思ったりで…。

私自身も得意なことと苦手なことの差が激しいので、そこを息子に引継いでしまったかな…と反省しております。そんなことも周りの皆様の力を借りながらカバーしていったらと思います。

先日の新年例会で嬉しいことがありましたので、報告させていただきます。

その時に「このような文化を残せるようにしましょう」とお話をさせていただきました。

その後、大塚くんより「家族をランチに連れていきたいから、予約を取ってほしい」という電話があり、すぐに家族を連れて行ってきてくれたみたいです。

お母様は昔、企業の経理をされていて、役員の請求書や領収書で"か茂免"という字をよく見ていたことがあったそうで、「こういうところに来て、すごく嬉しい。連れてきてくれてありがとう。」と言ってもらえたみたいです。

お父様も若女将からお酌してもらって、喜んでたくさん飲んで気持ちよく酔っぱらわれたそうです。

大塚くんから改めて御礼の連絡をもらったときに、ロータリーでこのような機会をつくれてよかったなあ、と。このような学びの機会をつくっていけるような名古屋宮の杜ロータリークラブでなければいけないと思った瞬間でした。

これからも皆様と一緒にちょっと背伸びをしながら成長していけるような、そんなクラブをつくっていきましょう。

本日もよろしくお願いたします。



幹事報告

●毎年2/7に開催予定だったIM(インターシティミーティング)は中止となりました。●2/14開催予定の地区社会奉仕委員長会議はZOOMの開催となりました。

出席予定者は出口社会奉仕委員長です。

●2/16開催予定だった国際奉仕委員長会議は中止となりました。

●1/13(木)に5周年記念式典実行委員会が開催されました。

●本日は例会前に第7回定例理事会が開催され、例会後は14:00～となり若宮八幡社にてご祈禱を行います。参加を希望された方は例会終了後13:50には再度会場にお集まり願います。

●次回例会2/3(木)12:10～13:00@若宮の杜迎賓館1階「橘の間」

例会前11:00～第8回定例理事会を開催致します。

次回はまん延防止等重点措置期間となる為、会場での食事提供ではなく、お弁当のご提供となります。



委員会報告

【出席委員会】

・出席率

(今回)

第124回例会(1/20)

当日出席率:28/51名 54.9%

(前回)

第123回夜間例会(1/6)

当日出席率:40/51名 78.4%

修正出席率:51/51名 **100%**

※出席免除者除いて計算

・ニコボックス

加藤謙一より

牧野さんいらっしゃい。

牧野敬充より

牧野さんようこそ。どっちがマッキー?(笑)

鈴木拓将より

息子の受験が無事に終わりますように!!

山下智己より

長期休暇すみませんでした。

今後ともよろしくお願いたします。

浅野慎之、佐野洋一郎、高木俊郎、田中吉彦、永田聡子、堀場和孝より
第124回例会を祝して

【米山記念奨学委員会】

2021学年度米山記念奨学生

イ・ジェギョン氏より



みなさん、こんにちは。

まずは、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

私が今年やるべきことは、就職先がないと日本に残ることができないため、就職先を見つけることです。

私が行きたい企業の業界はやりきるしかない業界です。

そこを狙っているわけではなく偶然大企業しかありません。

私は商品の企画や開発にいきたいと思っております。そうなると大企業しかなく、少し視野を広げてエントリーしていこうと思っていると、色々な企業があり悩んでおります。

やりたいことだけをやる企業に行くのか、少しだけやりたいことに携われる企業に行くのか考えているところです。

私もコロナ禍になってから太ったのですが、そうは見えないみたいで、バイト先で太ったというと怒られちゃいます。体脂肪率が上がったたり、体力が落ちてしまったりしております。ジムが好きなので、学校も終わりましたし、また来月から通い始めようと思っております。

また来月もよろしくお願いいたします。

その他

会員卓話:私史と社史

イムズ教育システム株式会社 佐野 洋一郎 氏



山城プログラム委員長の主旨である、新会員の方も増えてきたこともあり、この機会にもっと会員同士を知ろうということで、このような機会をいただきました。

昨年度にも卓話の機会を頂いておりましたが、コロナの影響により中止になり、HP上で長々と文章を書きました。(参照:[佐野洋一郎 会員スピーチ内容記載ウィークリー](#))

私は学習塾を営んでおります。今年で30年になります。

私はコツコツ努力することができません。努力をする代わりに苦労はします。

1967年に生まれて、小中高と提出物は直前に仕上げ、瞬発力だけでやってきました。

そして、運だけで生きてきました。

生まれた途端に10歳まで生きられないだろうとお医者さんから言われて、小さな頃から母親には心配されてきました。友人と旅行に行くことや、遠出も母親が断り、そういった思い出はあまりありません。

10歳くらいに人間ドックを受けて、これなら大丈夫だと診断され、それ以降は自由に生きてきました。そんな母親も2~3年も亡くなり、家族のしがらみというものもひとつ区切りがついたところで、54歳になるこのタイミングで改めて前を向いて生きていかなければと思っております。

1992年、私が24歳のとき大学に通い始めました。

高校を卒業してから家の事情で、6年ほど喫茶店のウェイターであったり、ケーキ屋さんで生クリームをぬっていた時期もあったり、不動産屋で修行をしたりなど、いろいろな仕事をしながら過ごしておりました。その中でいろいろな人と出会って勉強していく中で、やはり社会の仕組みをしっかりと考えていかなければと思い法学部を志望して通い始めました。

食べていくために、入学してすぐに週7で塾講師や家庭教師をしていたのですが、人の下に就く気質ではなかったので、自分でやったほうが良いと思い、その年の年末に大学の周りの学生に声をかけて、東山にある喫茶店の6畳の物置を売上の何%と引き換えにお借りして、当時大学の同級生であった妻と塾をやり始めました。

昼間は喫茶店の物置ですので、結構油くさい教室だったのですが、ありがたいことに結構たくさんの生徒さんに来ていただきました。

たくさんの方に来ていただいた理由は明確で、「大学個別指導塾」を看板にしたことだと思います。当時は「個別指導」と広告を打つと結構お問い合わせいただきました。そして、当時24歳ではありますが、ご信頼いただける喋りはしていたので、小さな塾に30~40名ほどの生徒さんに指導をして、大学にはほとんど行かずに過ごしておりました。その流れで生徒さんが増えるにつれて、部屋を増やしていきながら、数年で上のマンションの2フロアを塾にして、気が付けば抜け出せなくなっていたというところでした。

ただ、過去には大学に残ろうかなと思ったこともありました。

大学時代、ゼミを選択する際に私は当時から仕組みを作ったりすることが非常に心地よく感じることから、民事訴訟を専攻して勉強しておりました。

その当時の外国人助教授から、民事訴訟は学者が少ないこともあり、残るのであれば手伝うといわれておりました。しかし、私は冒頭に申したとおりコツコツ努力ができません。これは学者として致命傷なのです。義理の父が学者なのですが、コツコツ努力をされる方で、しかも全然寝ないのです。

私は非常にロングスリーパーなので向きません。

ある時、そもそもなぜ大学に来たかを尋ねられたとき、

「父が経営していた不動産屋さんで本当にいろいろな方に出会って、いろいろな経験をしているうちに表の理論を学ばなければいけないと思い…、ただ食べていかなければいけないので塾やってる。」と塾の状況も併せて話すと、佐野さんは学業ではなくて実業だと言われ、仕事に専念することを決めて、今に至ります。

大学は卒業しなくてもいいかなとも思いましたが、当時、銀行から融資を受けている関係上、卒業だけはしておいてほしいと言われたため、6年かけて卒業しました。

その後、塾は苦勞知らずのまま順調にやってこれたました。

次の転機が2001年になります。

当時、通い始めた床屋さんで、ある人から選挙にでるという話を聞き、小さなころから政治は身近にあったことや、大学に入ってからもいつかは政治に関わりたいたいという思いがあり、手伝わせていただくことになりました。

いろいろな会合の企画や、運転手として愛知県中を飛び回ったりして…本当に怒涛な毎日を過ごしておりました。

政治にかかわると経営は傾きました。売上は20%ほど下がりました。

ただ、ずるずると関わり続けます。

そして、2003年に私の教育系の師匠と出会います。

毎週一宮から名古屋にお越しいただき、2~3時間一対一で教育の本質的な課題、人の見方、子どもたちとの接し方、伸ばし方のあるべき姿を教わりました。

政治に関わりながらもそういったことを学び、それまでの私にとっての塾というのは、お金儲けの手段でしかありませんでした。

塾屋というのは結果責任をダイレクトに負います。これは学校や予備校と決定的に違う部分になります。尚且つ子どもとその親御さんと一対一で真剣向き合っていかなければなりません。

それまでも塾屋の教師としてしっかりとやってきていたつもりではありますが、教育の本質的な部分まで考えておりませんでした。

当時は政治家も目指しておりましたので、政治家として教育を今後どうするべきかを本当に教わった時期になります。

その師匠であるツルタ先生から教わったことを、今日皆さんにもご紹介します。

※下記参照

[佐野洋一郎 会員スピーチ内容記載ウィークリー](#)

まだまだネタはありますので、また機会がありましたら5時間でも6時間でも話すことはできますので。

本日はありがとうございました。